

序論)

私達はアドベントの 4 週間を通して、イザヤ書から救い主イエスキリストの誕生を見てきました。今日はそのイザヤと同じ時代に活躍した預言者ミカの預言をみていきたいと思います。

ミカについて)

ミカは、イザヤとほぼ同時期に活躍した預言者です。

ただイザヤとくらべるならば、イザヤはエルサレムなどの大きな町で預言していたのに対し、ミカは田舎の町や村で預言していた人物でした。

彼が活動したのは、紀元前 725～700 頃で、彼はモレシエテという非常に小さな村の出身です。その小さな村に生まれたミカは、身分の低い者のために社会にはびこる不正を告発し、富を貪る指導者や預言者を神様のことばによって非難する。・・・そのような働きをしていました。

ミカ書の 1 章から 3 章は墮落した指導者や社会に対して悔い改めを求める預言が語られており、4 章、5 章は弱者を苦しめる世の中であって、救い主が到来することを預言している箇所となっています。

預言が語られた状況)

さて、今日の箇所が一番有名なのは救い主イエスキリストがベツレヘムに生まれることを預言している 2 節のみことばです。この預言がどのような状況でかたられているかという、1 節にはこのように書かれています。

5:1 今、軍勢をなす娘よ、勢ぞろいせよ。包囲網が私たちに対して設けられた。彼らは、イスラエルをさばく者の頬を杖で打つ。

「今、軍勢をなす娘よ、勢ぞろいせよ。」というのはエルサレムの住民に対する呼びかけです。この時代は北イスラエル王国がアッシリアによって滅ぼされ、南ユダ王国もアッシリアの攻撃や、バビロン帝国の攻撃にさらされようとしているそのような時代です。

そして、神様はミカに、このアッシリアやバビロンからの攻撃はもはや避けることができないと教えられたのでしょう。「彼らはエルサレムの町を包囲して、イスラエルをさばく者の頬を杖で打つ」といっています。

つまり、南ユダ王国の最後の王様。ゼデキア王がバビロンによって殺されてしまうという預言です。そのような敵の攻撃があるから、エルサレムの人たちは軍隊を作って備えなさい。とミカは語っています。

恐らくミカは。このエルサレムの人たちが作る軍勢によって、エルサレムの外にいる農村の人たちも助けてほしい。という思いがあったのではないかと思います。だってみなさん考えてみてください。エルサレムは立派な城壁がありますが、そのエルサレムの外にある小さな町や村には、城壁などあるわけがないし、アッシリアやバビロンが来たならば、なんの抵抗もできずに敵に蹂躪されてしまうしかありません。だから城壁があり、力があるエルサレムの人たちに彼らを助けるための軍勢を作りなさい。と言っているのです。

結局は、滅ぼされてしまうのですが、それだけ切羽詰まった状態にあるのが、この預言が語られた南ユダ王国や、エルサレムの周りにある小さな町や村の状況だったのです。

イスラエルを治める者の出現の預言)

★小さな者のために

そして、そのような中で 2 節の預言が神様から語られたのです。2 節を読みます。

5:2 「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。」

実はイスラエルにはイエス様が生まれたベツレヘムと同じ名前の別のベツレヘムが当時はありました。それはどんなベツレヘムかというと、イスラエル 12 部族の中のゼブルン部族に割り当てられたベツレヘムです。

みなさん、イスラエルの歴史を思い出してください。イスラエルはエジプトから脱出して約束の地に入った後、その土地をイスラエル 12 部族それぞれに割り当てました。ゼブルン部族はここ、ダン部族はここ、ユダ部族はここ という感じで、神様はそれぞれの部族の大きさに合わせて、それぞれが相続する土地を割り当てたのです。そのことが書かれているのがヨシュア記の 15 章とか 19 章です。そして、そのヨシュア記 19 章をみてもみると、ゼブルン部族にベツレヘムという町が割り当てられた。とかかかれています。

ところが、それはイエス様が生まれたベツレヘムではなくって、別のベツレヘムでした。なぜかという、イエス様が生まれたベツレヘムというのは、ダビデの出

身、ユダ部族のベツレヘムだったからです。ところがですね。神様がイスラエル 12 部族に土地を割り振ったときの記録には、ユダ部族にベツレヘムという町が割り当てられたという記録がないのです。なぜ、そのような記録がないかというと、イエス様が生まれたベツレヘム、2 節でいうところのベツレヘム・エフラテという村は、ヨシュア記に記録する価値もないほど、小さな小さな村だったからです。

救い主イエスキリストが生まれるとういう神様のご計画がなければ、イスラエルの歴史に残らないほどの小さな存在。それがこのベツレヘムという村なのです。

でも、神様はそんな歴史的価値が見出されない。地図にもものらないような村を指定して、「そこから、わたしのためのイスラエルを治めるものがでるよ」と預言されたのです。みなさん、これはですね。ミカが預言を伝えていた田舎の村や町にとっては、大きな希望であり、慰めであり、福音の言葉だったと思います。

アッシリアとか、バビロンが攻めてくるのに、大都会エルサレムの町の人たちは、自分たちだけが城壁にこもって身の安全をはかろうとするようななかで、田舎の町や村はすぐに襲われるしかないそのような状態。

でも神様は、本来なら記録に残らないほどの小さなベツレヘム・エフラテというところから、神様のための支配者が出てくると語られている。

これは同じ小さな取るに足りないベツレヘムからダビデが出てきて勝利してくれたように、神様が小さなベツレヘムから自分たちの救い主を送ってくださるという弱者にたいする福音だったからです。

この預言の成就是、ご存知の通り、ミカたちの時代から 700 年後のイエス・キリストによって成就します。

神様は、多くの人から見捨てられ、地図にもものらない、記録にも残らない。そうゆう小さなところに、神様のための支配者をだして、ベツレヘムのように弱くて足りなくて小さな者に救いの希望をお与えになったのです。

しかも、この神様の計画はいつから決められていたかというと、「永遠の昔から」定まっていたのです。パウロ流にいうのなら、世界の基が置かれる前から、小さな弱い者のために本当の支配者を送り出す。という計画を、神様は立てておられたのです。

みなさんは、自分のことをどのように評価されているでしょうか。自分には力がある。とっておられるでしょうか。それとも、自分は小さな弱い者である。と考えておられるでしょうか。もし、自分の弱さ、足りなさ、小ささ、惨めさ、無力さに心をいためているのなら、そんなあなたのために預言されたのが、この 5 章 2

節のみことばなのです。

神様は記録にも残らないほどの小さなものを救ってくださるお方なのです。

★異邦人の救いも計画されていた)

でも、救い主であり本当の支配者であるイエス様の出現は、すぐにではありませんでした。3節を読みましょう。

5:3 それゆえ、彼らはそのままにしておかれる。産婦が子を産む時まで。そのとき、彼の兄弟のほかの者はイスラエルの子らのもとに帰る。

「それゆえ、彼らはそのままにしておかれる。」というのは、救い主が生まれるまでは、イスラエルの厳しい状況はそのままにしておかれるということです。ミカの時代にあてはめるのならば、バビロンに攻め滅ぼされるということはそのままにされてしまう。ということです。

でも、真の支配者であり、救い主であるイエスキリストがうまれたらどうなるかということ。「彼の兄弟のほかの者はイスラエルの子らのもとに帰る。」とあります。

「彼」というのはイエス様ですね。そして「彼の兄弟」というのは、ユダヤ人のことであり、イスラエル人のことです。ということは、「彼の兄弟のほかの者」というのは、イスラエル人、ユダヤ人のほかのもの。つまり、異邦人、私達のことです。

神様は、本当の支配者であるイエス・キリストの誕生によって、私達異邦人。神の民ではないとされていたものが、イスラエルの子らのもとに帰る。つまり、神の民と一つにされる。ということをごここで預言されていたのです。

だから、異邦人である私達が救われて、キリストによって神の民にされました。

神様は、なんとイスラエルに対する救いの預言の中に、私達、異邦人に対する救いも語っておられたのです。

★羊飼いなる支配者

そして、私達をも救ってくださるお方が、この地上に生まれて何をなされるかということ、4節。

5:4 彼は立って、【主】の力と、彼の神、【主】の御名の威光によって群れを飼う。そして彼らは安らかに住まう。今や彼の威力が、地の果ての果てまで及ぶからだ。

救い主、イエスキリストは何をなさるのでしょうか。主なる神様の力とその威光

によって、「群れを飼う。」と書かれています。つまり、私達の羊飼いとして、私達を養い、守り、導いてくださる。ということです。

実際、イエス様ご自身も言われました。「わたしは良い牧者です」「よい羊飼いです」と。イエス様がそのようにいわれた箇所を読みましょう。ヨハネの福音書 10章 11-16 節です。

10:11 わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。

10:12 牧者でない雇い人は、羊たちが自分のものではないので、狼が来るのを見ると、置き去りにして逃げてしまいます。それで、狼は羊たちを奪ったり散らしたりします。

10:13 彼は雇い人で、羊たちのことを心にかけていないからです。

10:14 わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っており、わたしのものは、わたしを知っています。

10:15 ちょうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じです。また、わたしは羊たちのために自分のいのちを捨てます。

10:16 わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊たちがいます。それらも、わたしは導かなければなりません。その羊たちはわたしの声に聞き従います。そして、一つの群れ、一人の牧者となるのです。

神様は、永遠の昔から、私達を養ってくださる羊飼いであり、良い牧者であるイエスキリストをこの世に送ることを計画されてきました。そして、このイエスキリストによって、異邦人である私達が救われ、最初に選ばれたイスラエルの人たちと一つの群れとなり、私達の牧者は唯一イエス・キリストお一人となるのです。そして、イエス様はそれを成就するために、ご自分のいのちをお捨てになられました。だから、私達は今このように礼拝をしています。

ミカ書の預言にもどります（ミカ 5:4 を表示）が、この羊飼いなる主は、私達が安らかに住まう神の国を与え、その救いのみわざを地の果まで広げてくださるお方です。

主イエスキリストは、そのためにベツレヘム・エフラテにお生まれになりました。

まとめ)

みなさん、みなさんがどんなに自分のことを小さい存在、取るに足りない存在と思われたとしても、父なる神様はその皆さんを救うためにキリストがベツレヘムに生まれるようにされたのです。

そして、そのベツレヘムに生まれたキリストは、永遠の昔から定められた王様であり、イスラエルだけでなく、私達をも神の民としてくださるお方です。

この御方は、主なる神様の力と威光によって私達を養い、守り、導き、安らかな住まいを与えてくださるお方です。そして、それは主イエスキリストがいのちを捨てることで成就しました。

みなさん、私たちのために命を捨てる。そのためにお生まれになったイエスキリストを、この夜あらためて覚え、心から感謝の時を持っていきましょう。